

春日神社石燈籠



春日燈籠のおもかげを色濃く伝えた鎌倉時代につくられた燈籠です。国の重要文化財です。

〔春日五丁目〕

茨木遺跡



茨木小学校付近には、かつて茨木城があったと言われ、平成18年(2006年)度の発掘調査で、障子などの建具とともに立派な篋欄間が出土しました。

〔本町〕

農聖こにし あつよし小西篤好碑



篤好の30余年の研究結果が著された『農業余話』は国学者平田篤胤の校訂を受けて、出版されました。

〔大字佐保〕

茨木市の史跡紹介

【国史跡 郡山宿本陣(椿の本陣)】

江戸時代の参勤交代の時に大名が宿泊・休憩したところで、かつて正門わきの椿がみごとな花を咲かせたことから、“椿の本陣”とも呼ばれています。(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から現在は見学不可) 〔宿川原町〕



【茨木市の史跡紹介】

れんげじ 蓮花寺

行基が、夜、池に不思議な光が発するのを見て寺を建てたといわれています。木造地藏菩薩立像(写真)、木造十一面観音立像は府指定文化財です。

〔天王二丁目〕



てんしょうに わんめい まがいはつ 天正二年銘磨崖仏



幅6メートルの自然石に合掌した立像が28体と、天正2年(1574年)の銘が刻まれています。逆修(生前に死後の冥福を祈ることを目的につくられたと考えられています。市指定文化財です。 〔大字上音羽〕

みそくい 溝咋神社



古事記や日本書紀に伝わる玉櫛媛命・五十鈴媛命を祀っている神社です。

〔五十鈴町〕

総持寺



西国第22番札所として巡礼者でにぎわっています。毎年4月18日には「庖丁式」が行われます。本堂を含む建造物9棟が市指定文化財です。〔総持寺一丁目〕

総持寺瓦窯跡



室町時代後期のもものとみられ、当時の形状をそのまま残している貴重な瓦窯跡です。市指定文化財です。

〔総持寺一丁目〕

太田茶臼山古墳 (継体天皇陵)



全長226メートル、前方部幅147メートル、前方部長117メートル、後円部径138メートル、最大幅30メートル程の濠をもった三島地域最大の前方後円墳です。〔太田三丁目〕

市の歴史の足跡をたどって

茨木の歴史

茨木市域に人々の活動のあとがうかがえるのは、今から1万5千年以上も前の旧石器時代。つづく縄文時代の後半や弥生時代には、多くの人々が生活し、その痕跡が残されています。なかでも東奈良遺跡から発見された銅鐸の鋳型は有名です。

また、古墳時代の前期から終わりごろまでの各時期の古墳が数多く残されています。

奈良時代には、市域中央部を東西に走る街道の往来が盛んになり、室町時代には、本市繁栄の基礎となる茨木城が築かれたと考えられています。

江戸時代になると参勤交代などで大名らが郡山宿本陣(樺の本陣)を宿泊や休憩に利用しました。今も、西国街道沿いに建つ本陣は、往時の面影を残しています。

本市は、明治4年(1871年)に、廃藩置県により大阪府の管轄となり、後の郡制の実施で、明治31年(1898年)、三島郡に属しました。

この年の10月、茨木村は茨木町となり、その中心地として栄えました。

昭和23年(1948年)1月、茨木町・春日村・三島村・玉櫛村の1町3村が合併し、茨木市は誕生しました。その後、8か村の合併、編入を経て、現在に至っています。



【中河原遺跡出土絵画土器】

平成29年(2017年)に中河原遺跡から出土。複数の高床建物が描かれている全国的にも大変珍しい弥生時代の土器です。〔文化財資料館〕



【銅鐸の鋳型】

昭和49年(1974年)に東奈良遺跡から出土。考古学的に貴重な遺物として、全国的に話題を呼びました。国の重要文化財です。〔文化財資料館〕

忍頂寺(寿命院)



かつては仁和寺の直末寺で浄土信仰の修行の場となっていました。ここには、元亨元年(1321年)7月15日の銘が刻まれた、府指定文化財の五輪塔があります。

〔大字忍頂寺〕

権内水路(深山水路)



江戸時代、庄屋畑中権内が独力でつくったとされる水路。かつては数多くの水車が回り、車作の田を潤しただけでなく、飲料水の源でもありました。

〔大字車作〕



【マリア十五玄義図】

千提寺の東家で発見された絵画で、イエスとマリアの生涯を十五の絵で表現したものです。府指定文化財です。

〔大字千提寺〕

「次なる茨木」に向けたまちづくり

令和4年7月現在

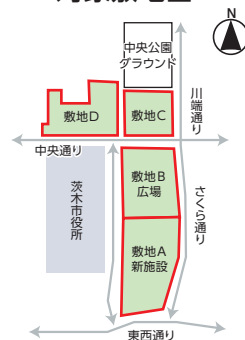
市民会館跡地エリアの活用

令和5年秋の完成をめざして、市民会館跡地を含む市役所周辺で、「育てる広場」をキーコンセプトとする文化・子育て複合施設「おにクル」を中心としたエリアの整備工事を進めています。

スケジュール

令和2年度 …………… 設計、準備工事
令和3・4年度 …………… 設計、本体工事
令和5年度 …………… 竣工
令和6年度～ …………… 敷地C、D整備

対象敷地図



イバラボ IBALAB@広場

“つくる”と“つかう”を繰り返し、つながる広場

敷地CとDの一部では、暫定的な広場を整備し、さまざまな社会実験や活動を試す場とする「IBALAB@広場（イバラボひろば）」プロジェクトを進めています。

この広場は、設計の段階から市民のみなさんと一緒に考えて整備を進めてきました。現在も広場を「つかう」方たちと一緒にルールを考えて更新していくなど、ハード・ソフトともに広場を「つくる」段階にも参加していただくことで、効率的で効果的な「つくる・つかう」の好循環を生み、みんなで広場と人の輪を育てています。

そして、この広場で生まれた活動や人のつながりは、「おにクル」にも引き継いでいきます。

広場では芝生の上でくつろぐ家族や、ストリートスポーツを楽しむ学生など幅広い世代が多様な過ごし方をしています。休日にはコンサートやマルシェなどの開催も。



広場には「いばらきコモンファクトリー」（カフェ）もあり、ゆっくり過ごすことができます。

いばきた

豊かな自然や美しい棚田の風景が広がる北部地域、通称「いばきた」には、地元産の新鮮な野菜などを販売している「de愛・ほっこり見山の郷」や宿泊もできる「忍頂寺スポーツ公園・竜王山荘」、バーベキューコーナーなどを併設した「里山センター」などがあります。また、サイクリングやハイキングのコースとしても人気があります。



彩都のまちなみ

彩都

人と自然の調和を基本に、さまざまなニーズに対応した都市・住環境整備が進められています。また、住宅だけでなく、企業誘致も進められ、施設見学が可能な企業も立地しています。



まちづくり



文化・子育て複合施設「おにクル」

立体的な公園のような新施設と広場

おにクルは、ホールや図書館、子育て支援、プラネタリウム、市民活動センターなどさまざまな機能を備えた複合施設で、施設の前に芝生広場が広がっているほか、施設自体にもたくさんの植栽を配置するなど、緑豊かな施設です。

図書館と子育て支援のコラボレーションなど、複合施設の特徴を生かした取り組みを行い、常にいろいろな発見や出会いがある、誰もが過ごしやすい、訪れたいくなる「公園」のような場づくりをめざします。

「おにクル」という愛称は、市内在住の6歳の子どもが、まちでよく目にする鬼のキャラクター「いばらき童子」を見て、「怖い鬼ですら楽しそうで来たい場所」という意味を込めて命名。



大ホールイメージ



安威川ダム

令和5年度からの本格運用をめざす安威川ダムは、100年に一度(時間雨量80mm、日雨量247mm)の大雨から市街地を守ります。また、「いばきた」全体の地域振興の拠点となる、ダム湖畔に近い敷地を活用した公園なども、令和6年春の完成をめざして整備を進めています。



イメージ

姉妹・友好都市

文化振興課… ☎620-1810

市では、国内外の都市との文化・スポーツ等の交流を通じ、市民相互の友好と親善を深めようと、姉妹・友好都市交流を行っています。

交流は、茨木市国際親善都市協会が活動主体となって、市民レベルでの友情の輪が着実に広がっています。



姉妹都市

アメリカ合衆国ミネソタ州 ミネアポリス市
昭和55年(1980年)10月22日 提携



ミネアポリス市街地

友好都市

中華人民共和^{あん き}国^{あん けい}安徽省 安慶市
昭和60年(1985年)10月5日 締結



振風塔(長江沿岸の著名な石塔)

姉妹都市

香川県小豆郡 小豆島町
昭和63年(1988年)10月2日 提携(旧内海町)

小豆島町は小豆島の中央から東部に位置し、面積は95.59平方キロメートル、人口約13,300人の町で、平成18年3月21日に内海町と池田町が合併して誕生しました。オリーブ、石材の加工産業、しょう油・つくだ煮・そうめん等食品加工産業を中心に発展しています。

また、町内には、壺井栄の小説『二十四の瞳』の舞台となった岬の分教場や深谷が美しい寒霞溪などがあります。



寒霞溪

歴史文化姉妹都市

大分県 竹田市
平成25年(2013年)11月16日 提携

竹田市は、大分県の南西部に位置し、面積は477.7平方キロメートル、人口約20,300人の市で、熊本県・宮崎県に隣接しています。古くは難攻不落の名城とされ、現在国指定史跡となっている岡城の初代藩主中川秀成は、茨木城主中川清秀の次男です。岡城は、「荒城の月」のモチーフになった場所としても広く知られているほか、阿蘇くじゅう国立公園の一角に位置する久住高原や高濃度炭酸泉で有名な長湯温泉や、竹灯籠が幻想的な「竹楽」などの催しがあります。



久住高原

小豆島町・竹田市の宿泊施設利用補助

小豆島町・竹田市との交流促進を図るため、両市町の宿泊施設を利用する市民の皆さんに対し、次のとおり宿泊費用の一部を補助します。

対 象 茨木市内在住者

利用補助施設

両市町にある茨木市指定のホテル・旅館・民宿・ペンション、公共宿泊施設等(詳しくは文化振興課にお問い合わせください)

補助額

○小豆島町 中学生以上(1泊分)2,000円 小学生(1泊分)1,500円
○竹田市 中学生以上(1泊分)5,000円 小学生(1泊分)3,000円

ただし、利用施設の料金が補助額に満たない場合、その利用額を補助額とします。

両市町とも、幼児に対する補助はありません

補助回数

1人各市・町1泊分(4月1日～翌年3月31日)

利用方法

各自で宿泊施設を予約後、宿泊の10日前までに申請書に必要事項を記入のうえ、文化振興課に提出してください。



姉妹・友好都市